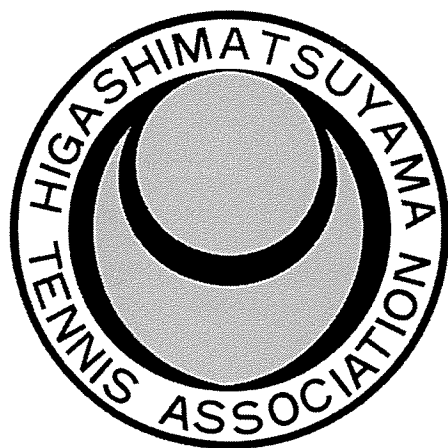


# 30周年記念誌



東松山市テニス協会

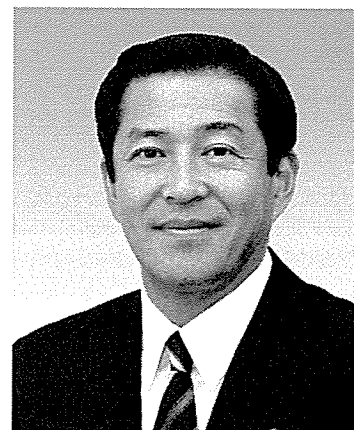
# 30周年記念誌



---

東松山市テニス協会

## 東松山市テニス協会創立30周年に寄せて



東松山市テニス協会  
会長 坂本祐之輔

ここに東松山市テニス協会が創立30周年を迎えるにあたり、これまで当協会の発展にお力添えをいただきました大勢の関係の皆様に対し、心より感謝を申し上げます。

昭和55年の発足当時、7団体でありました加盟団体も、現在では33団体、総勢607名の皆様にご加盟をいただき、テニススポーツの普及・振興はもとより、大会の開催やテニス教室の運営をはじめ、関係機関との連携を図りながら、ジュニア選手の育成等、様々な事業を実施してまいりました。

このたび30周年という記念すべき年を迎えることができたのも、設立当初より協会の発展に尽くされてこられました故根岸洋前会長、今中隆雄初代理事長を始めいたします歴代役員の皆様、並びに関係者の皆様の並々ならぬご尽力の賜物と、心より敬意を表するとともに、重ねて感謝を申し上げる次第でございます。

当市では、市民一人ひとりがスポーツに親しみ、健康な人生を送ることのできる『生涯スポーツ社会』の実現を目指し、『市民一人1スポーツ』『週に一度はスポーツを』の推進に取り組んでおります。また、私は財団法人埼玉県体育協会会長、日本スポーツ少年団本部長を務めさせていただいており、700万県民の皆様、そして全国の子供達にスポーツの素晴らしさを伝えるべく、スポーツの普及・振興を図っているところでございます。

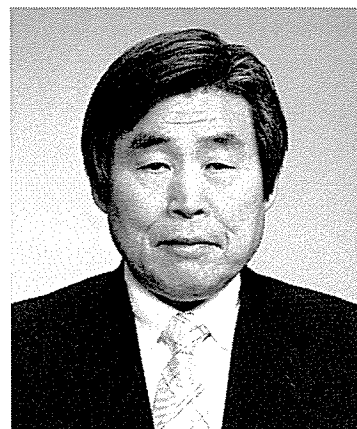
昨今の高齢化社会の進行に伴い、健康や体力づくりに対する市民ニーズも高まりを見せており、生涯にわたってスポーツ活動に積極的に取り組もうとする方々が増加しております。このような中、テニスは老若男女を問わず多くの方に愛好されている人気の高い生涯スポーツであり、当協会の果たす役割が益々大きくなっているものと考えております。

今後とも加盟団体をはじめ、関係団体の皆様との連携を深めながら、生涯スポーツとしてのテニスの更なる普及に取り組み、より多くの方々が心身ともに健康な毎日を送ることのできる社会を目指して邁進してまいり所存でございますので、今後とも皆様方の温かいご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

結びに、この30周年記念誌の発刊が、これまでの東松山市テニス協会の歩みを振り返り、そして新しい一步を踏み出す素晴らしい機会となりますことを心よりご期待申し上げますとともに、関係各位の益々のご健勝とご多幸をご祈念申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

## 祝 辞

### 東松山市テニス協会三十周年を祝して



東松山市体育協会  
理事長 大谷利男

東松山市テニス協会の創立三十周年、誠におめでとうございます。

その輝かしい歴史を飾る記念誌の発刊に、拙筆ながら寄稿できることに心から感謝申し上げます。

さて「継続は力なり」とは言い古された言葉ではありますが、山あり谷ありの三十年間は人々の生活の多様化や意識の変化等、我が国にとっても激動の時代でありました。こうした中においてテニスを楽しむ人々の心をひとつにし、ひたすら協会発展のためにとご尽力された歴代指導者の皆様の確かな舵取りがあったればこそこの今日と改めて深甚なる敬意を表するものです。

こうして培われた歴史は協会運営にとって大きな財産になったものと思われませんが、その一方で豊富な経験は時として活動のマンネリ化を惹起する要因も秘めており、表裏一体の悩ましい問題でもあります。

「変わりつづけること、それが生き残る道」との格言もありますが組織も個人も過去の成功体験の中に埋没しない、常に新しい時代感覚にもとづいた組織運営やそれへの参加が肝要だと思います。

他方、時代の変化と共に変わらなくてはならない事と、時代が変わっても変えてはならぬ事があることをしっかり見極めることも又大切だといえます。

近年スポーツ愛好者の低年齢化が顕著ですが、こうした傾向はマスコミ等の影響もあって結果万能主義を招来し、成績さえ良ければ人間性は二の次と言うような価値観を醸成しがちとなっています。

アマチュアスポーツの真髄はあくまでスポーツを通しての心、技、体の錬成にあると思います。換言すれば社会に通用する個人の育成です。つまりスポーツという非日常を日々の生活の中に取り入れられるかが肝心で、それが成ってこそスポーツが初めて生活への原点回帰を果たした時と言えるでしょう。

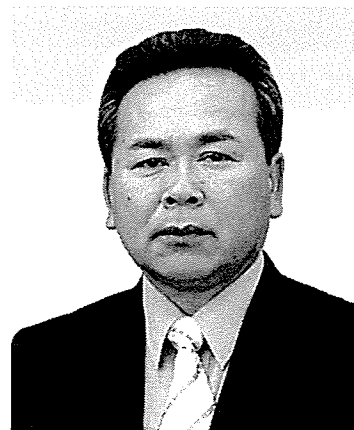
東松山市体育協会も関係各位の御支援のもとに本年十月に創立五十周年の節目の年を迎えます。その歴史に甘んじることなく、今後においても加盟二十三団体の皆様と共に力を合わせ、健康づくり、仲間づくり、人づくりを合言葉に地域に於けるスポーツの振興に邁進する所存でございます。

末筆になりましたが、貴協会の更なる発展を御祈念申し上げ三十周年をお祝いする言葉とさせていただきます。

## 祝 辞

創立30周年によせて

埼玉県北部都市テニス協議会  
会 長 朝見康夫



東松山テニス協会が創立30周年を迎えられ、ここに記念誌を刊行されますことを心よりお慶び申し上げます。

埼玉県北部都市テニス協議会は、埼玉県テニス協会傘下、10の加盟都市により各種事業を推進しております。なお、当テニス協議会は「埼玉県北部地区におけるテニスの普及振興を図り、テニス愛好者の親睦およびスポーツマンシップの高揚に資する」を事業方針として発足し現在に至っています。

このような経過のなかで、貴協会は常に中心的な役割を担っており、当協議会発展のために、多大なる貢献をいただいております。特に最近の事業と致しましては、平成17年度の埼玉県北部都市対抗テニス大会では、コーヒーや豚汁の振る舞い等、心暖まる対応と統制の取れた組織力を示し、素晴らしい大会を挙行されましたことにつきまして改めて感謝申し上げます。

さて、貴協会の事業内容を拝見すると、一年間を通しての各種大会の開催や、技術力の向上を目途とした所属団体会員を対象としたテニス教室の開催、また、組織の底辺を拡げ将来の組織創りを目指したジュニアの育成など、会員の意志を重視した事業内容を積極的に継続して取り組んでおり、この対応につきましては敬意を表する次第です。これらの事業は、今後とも末永く継続していただきたいと思っております。

次に、私および私の所属協会（行田市テニス協会）と貴テニス協会との関わりについて述べさせていただきます。まず、昭和55年に埼玉県スポーツ普及指導員の講習会が行田市で開催された際に、埼玉県テニス協会から派遣コーチとして、熱心なご指導をいただきましたのが、当時の県北テニス協議会会長（現県テニス協会副理事長）の今中隆雄氏でありました。その後、私が県北テニス協議会の副会長を拝命したことをきっかけに、貴テニス協会と行田市テニス協会との親交が深まり、親善試合を数年に亘り開催させていただきました。無論のことですが、試合後は懇親会となり和気藹々と過ごしたひとときは、楽しい思い出として記憶に留めています。

最後に、今後とも坂本会長を中心とした東松山市テニス協会の益々の活躍と発展をご祈念申し上げるとともに、埼玉県北部都市テニス協議会に対しておご指導、ご支援をお願いし、創立30周年記念のお祝いの言葉と致します。

## 創立30周年に寄せて



東松山市テニス協会  
副会長 伊藤正明

テニスレッスン、祝賀会。20周年行事を理事長として行ってからもう10年。顧みると、変わったものと変わらないことが交互に頭をよぎり、時の流れを感じる一方、協会を背負ってくれるメンバーの相変わらずの頑張りに改めて感謝の気持ちが湧いてきます。あの頃から続けて理事会を構成し、事業を運営、協会を支えてきた人たちを中心にして、新しくスタッフに加わった皆さんの意見が反映されて10年間に過ぎて、ここに30周年記念行事を行うことが出来るのを大変うれしく思います。

協会の組織でこの10年間、一番の変化は、会社のクラブ等の団体組織が中心であった時代から、個人が作り上げたチームが多くを占めるようになってきたことです。団体組織の枠にとらわれず、広く構成員を集めて登録し、試合を始めとするテニス全般を楽しもうというクラブチームは、それぞれの個性で彩られた様々な形態で運営されています。これは協会の裾野の広がりだけでなく、同時にレベルアップにもつながり、協会全体の活性化に大きく寄与していることは間違いありません。

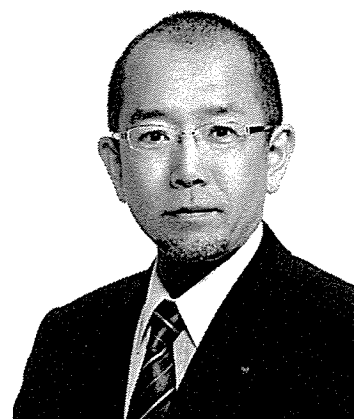
反面、組織として見た場合には、一般的に会社のクラブなどより、まとめにくいことが多いとも言えます。多くのクラブチームは、中心で東ねる方の努力によりその弱点をカバーして下さっていますが、構造的な問題だけに、今後も協会がまとまっていくための大きな注意点であることを忘れてはいけないと思います。

クラブチームの中には、テニス教室がきっかけとなって仲間が集まり出来たものもあれば、協会が20年ほど前から力を入れて育ててきているジュニアが成長して、チームとして協会に加盟してきてくれているケースもあります。ジュニア育成に努めて来たつもり私としては非常に喜ばしく思っているところです。

いろいろな人たちが、テニスというキーワードのもとに一つになった協会の組織は、成長すれば成長したなりの問題が発生してくるのは不可避です。テニスを愛する気持ちの結集で、それらの問題を乗り越えるごとに大きく広がる交流の輪が、協会を形づくる全員の大きな心の資産となるよう頑張りましょう。

これからも協会がさらに発展していくことを切望するとともに、会員一人ひとりのご健勝をお祈り申し上げ、30周年に寄せての挨拶にかえさせていただきます。

## 創立30周年によせて



東松山市テニス協会

副会長 田中 透

世界を見れば、男子ではロジャー・フェデラーが数々の記録を塗り替え、ウィリアムス姉妹のパワーテニスで女子のテニス界で猛威を振るう中、日本では若い錦織が期待を背負い、杉山が4大会連続出場の記録を更新し、カムバックして久々のツアー優勝を勝ち取った伊達に衆目が集まっている。

そんなテニス界の状況の中で我東松山市テニス協会は30周年という節目の年を迎えることができました。この日はこれまで協会を育ててきてくれた多くの先輩方の努力によりもたらされ、埼玉県テニス協会、埼玉県北部郡市テニス協議会と言うまでもなく、地域で支えて下さった体育協会や東松山市などの多くの皆様のおかげで訪れ得たものと、深甚なる感謝を申し上げる次第です。

さて、当協会の現状を見てみると会員数はピーク時から減少したものの堅調な推移で、試合のレベルもAクラスで有力な選手の活躍が顕著なのとともに、Bクラスの実力の底上げも見られ、20周年時に比して大幅なアップをしてくれていると思われまます。また、ジュニアの育成も関係者の献身的努力により周辺地域に誇れるものとなっています。

施設面では根岸前会長から、県の体育協会会長であり、日本体育協会の要職にある坂本現会長のご尽力によって、東松山庭球場が軟式テニス専用のクレートコートから、砂入り人工芝がナイター照明に映える地域有数の立派なコートになり、その恩恵は周知の通りです。しかしながら一方でその素晴らしさ故か市内外の試合専用に使われる機会が増え、一般市民の娯楽や練習のためのコート確保は日々難度を増している状況もあるのは皮肉なものです。

当協会の聖地とも言えた新郷硬式庭球場の閉鎖もその傾向を助長する要因となってしまいましたが、ニュースに「不況」の文字が踊る中、私たちはこのテニス協会の組織を纏め上げることでプレイ環境の拡充、改善を推進し、より多くの人々がテニスを楽しめる事業を展開していかなければなりません。

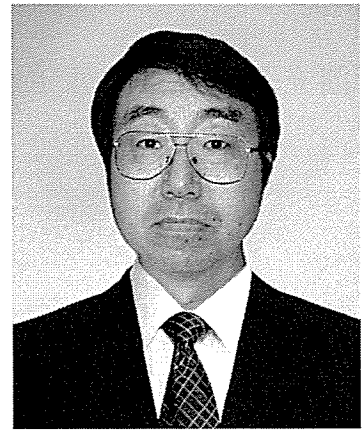
話は大局に転じますが、現在のスポーツ振興法は「営利のためのスポーツを振興するものではない」の一文でプロスポーツを否定しているものの、先頃廃案になったスポーツ基本法やスポーツ庁の構想は世界の流れに沿ったもので、その是非はともかくスポーツの環境自体が大きく変化していく時代なのは間違いありません。

また身近なところに目を移すと、テニス界全体が興隆するために重要なのは、素晴らしい選手の育成と共に、地域地域で多くの愛好者が広く楽しめる雰囲気と環境が整っていくことだと思います。高い頂きには必ず広い裾野が必要なのですから。

東松山市テニス協会もそんな新しい時代を見据えながらも、地に足をつけた堅実な運営を積み重ね、テニスという生涯スポーツを通じて、心身共に健康な人づくりの一翼を担う、大きな志を持って前進して行きたいと思ひます。

## テニス協会30周年について

東松山市テニス協会  
理事長 須長定夫



東松山テニス協会が30周年を迎えることができ、大変感激しております。昭和55年に発足して以来、協会関係の皆さんのご苦勞に心から感謝申し上げます。

私事ですが、昭和58年に二十人会（旧 東松山土木事務所）の一員としてテニス協会に加盟し、平成4年からテニス協会の理事に招かれました。その後、平成16年に長年理事長を務めていました伊藤正明氏が副会長に就任し、替わって私が理事長に就任いたしました。現在6年目です。

かねてから坂本市長の当協会会長就任を希望していました根岸前会長は、平成18年度から顧問に退き、現市長である坂本祐之輔氏の会長就任が実現しました。新たな体制で協会がスタートを切ったわけですが、その同じ年に悲しい知らせもありました。協会設立当初から会長を務めていただいた根岸洋氏が、続いて同じく設立時から理事、副会長とご苦勞してくださいました橋詰直輝氏が亡くなられたことです。これからもテニス協会のためにお力を戴こうと思っておりましたので、大変残念でなりません。

協会20周年から30周年にかけての大きな事業としては、坂本会長のお力添えにより、ソフトテニス連盟、テニス協会共通の希望でもありました東松山庭球場のナイター設備ができたことです。現在では平日昼間には仕事等でテニスができなかったプレーヤーが、ナイターで汗を流す光景をよく見ます。

しかし、残念なこともありました。東松山庭球場のナイター設備が整った平成19年度には、テニス協会の聖地でもありました新郷硬式テニスコートが閉鎖になり、東松山工業団地の一角になってしまったことです。今も代替コートを希望しているのですが、なかなか良い返事はいただけではおりません。年々東松山庭球場及び中原コートが大会で使用されることが多くなっているため、一般のテニス愛好者が週末プレーをできる場が減っているのが現状です。これからも一面でも多くコートが確保できるよう交渉していくつもりです。

東松山市テニス協会としては、大会運営及びテニス教室等で加盟者及びテニス愛好者の技術向上と親睦を図っていくことはもちろんのこと、市民の皆様が少しでも気楽にテニスをできる場を設けることも目的としております。

最後になりましたが、東松山市体育協会、埼玉県北部郡市テニス協議会、埼玉県テニス協会の関係の皆様方に大変感謝申し上げますと共に、これからも一層のご指導、ご支援をお願いいたします。30周年にあたり、理事長としてのご挨拶とさせていただきます。



# 写真で振り返る 東松山市テニス協会の30年

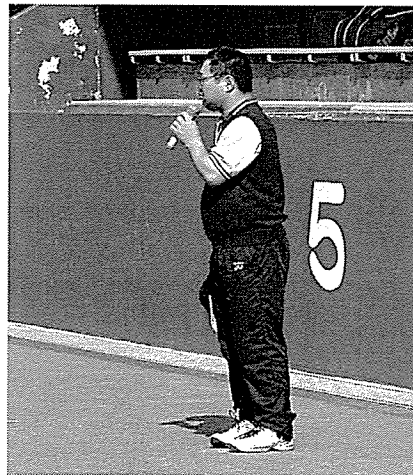
平成13年8月5日

まだクレートコートだった東松山庭球場での市民総体 ▶



平成14年3月10日

◀ 東松山庭球場が砂入り人工芝に改修されて、感触を確かめながら試打する協会会員。  
(白黒でわかりにくい鮮やかなグリーンがまぶしい)



平成14年5月12日

- ▶ クラブ対抗戦(男子)の開会にあたり挨拶する伊藤理事長(現副会長)
- ▲ 挨拶を見守る根岸前会長(左端)と担当理事
- ◀ 改修後、ほとんどの大会は東松山庭球場でスムーズに運営出来るようになった



平成18年4月22日

- ◀ 総会で根岸前会長から坂本会長へのバトンタッチが行われた
- ▲ 提出議案について説明する須長理事長
- ▼ 総会後の懇親会で（前列左から伊藤副会長、須長理事長、根岸前会長、坂本会長、神奈川副会長 後列左は今中隆雄初代理事長と、後列右は長年にわたり事務局で御苦労いただいた岸野剛仁氏）



平成18年7月30日

- ▶ 市民総体テニスの部の開会式で坂本会長の挨拶の後、須長理事長による大会諸注意
- ◀ 会長から賞状と賞品を贈られる
- ▲ 表彰式後、上位入賞者は種目別に写真撮影が行われる





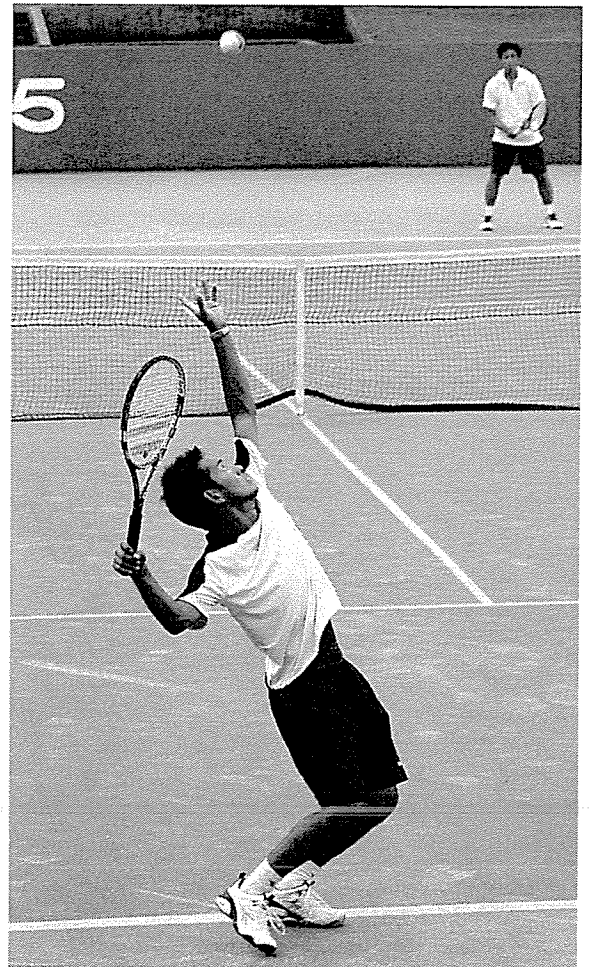
平成19年11月25日

◀ 東松山庭球場がナイター設備の工事中のため石油健保グラウンドに場所を移して実施されたミックスダブルステニス大会表彰式



平成21年5月10日

◀ ナイター設備の整った東松山庭球場でのクラブ対抗戦（女子）  
 ▲ クラブ対抗戦は、当初ダブルス2とシングルス1で争われたが、会員の意見により現在ではダブルスのみ3戦で行われている



平成21年8月2日

▶ 市民総体テニスの部、男子シングルス  
 最近、幅広く有力な選手が加盟団体に登録される傾向が進み、全体としてのレベルアップが見られる

# 東松山市テニス協会の30年

## 東松山市テニス協会の設立

世界的にテニスブームと言われ、県内のトーナメントにおいても参加者が急増し、テニスの普及が実感として捉えられる様になったのは昭和40年代の後半です。

東松山市に於いては当時、山陽国策パルプ（現日本製紙ケミカル）、チーゼル機器と自動車機器（ともに現ボッシュ）の実業団と大東文化大学等の数チームが活発な活動を示していましたが、一般への普及はまだまだの感がありました。

その後昭和50年代に入ると、テニス普及の全国的拡がりの中で、県テニス協会の指導のもと、各市町村単位のテニス協会設立の動きが活発化してきました。東松山市に於いても、当時県のトッププレーヤーであった山陽国策パルプの今中隆雄氏を中心として設立に向けた準備が進められ、チーゼル機器等他のメンバーの協力で、ついに昭和55年2月17日、中央公民館に於いて東松山市テニス協会設立総会が開催されました。その時の協会加盟団体は、山陽国策パルプ、チーゼル機器、自動車機器、東松山土木事務所、東松山マミーズ、大東文化大学、唐子テニスクラブのわずか7団体でした。



▲テニスボールをデザインした協会のマーク

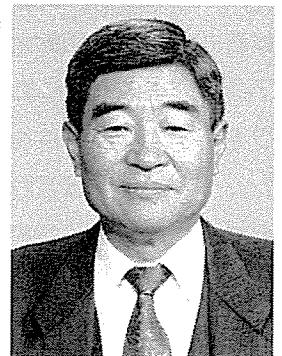
それからは市内で順調にテニス愛好者が増加し、協会としても試行錯誤しながらも各大会や事業に力を尽くして来ました。ピーク時には、今は廃部となった市立南中学校のテニス部が当協会にも登録したこともあり、加盟団体数34団体、登録人数は656名にまで増えました。テニスブームもこのところ落ち着きを見せ、昨年の平成20年度は33団体、607名になっていて安定した推移です。

設立当初から協会を支えてこられたのは根岸 洋前会長と今中隆雄初代理事長を中心とした理事や、多くの一般会員の皆さんですが、こうして30周年を迎えてみると、理事会のメンバーも多くの方が替わられていて、改めて月日の流れを感じざるを得ないところです。

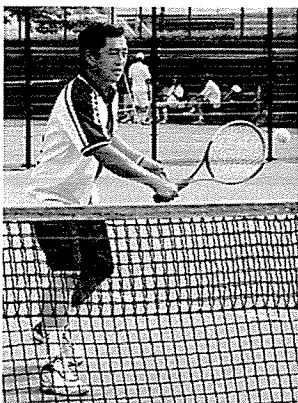
## 現在の協会組織と運営

設立当初から継続して会長を務めていただいた根岸 洋氏は、平成18年4月から坂本祐之輔氏に会長をお願いし、顧問に退きました。設立からの年月を考えると、根岸氏の当協会への功績はまさに多大なものがあると改めて感じています。また、坂本氏は周知の通り埼玉県体育協会会長にとどまらず、都道府県体育協会連合会会長から日本体育協会の理事、日本スポーツ少年団本部長等々、スポーツ界に於いて全国レベルで活躍されており、協会としては願ってもない新会長をお迎えできたと喜んでいました。

平成18年度からは新たに坂本会長のもと、伊藤正明・田中 透副会長、須長定夫理事長、原 徹副理事長が中心となって、それぞれの担当理事が各大会及びテニス教室、親善試合等の事業を進めています。



▲根岸 洋前会長



▲プレーする坂本祐之輔会長

また、定例総会は年1回4月に開催し、前年度の事業報告・決算報告とその年度の事業計画・予算を発表し、前年度の大会成績をポイントで加算した優秀選手の表彰も行っています。7月からは隔月で定例理事会を行い、その中で実務的な事柄を審議、決定し、重要事項については総会の場で発表、採決の上、決定事項として事業を実施しています。

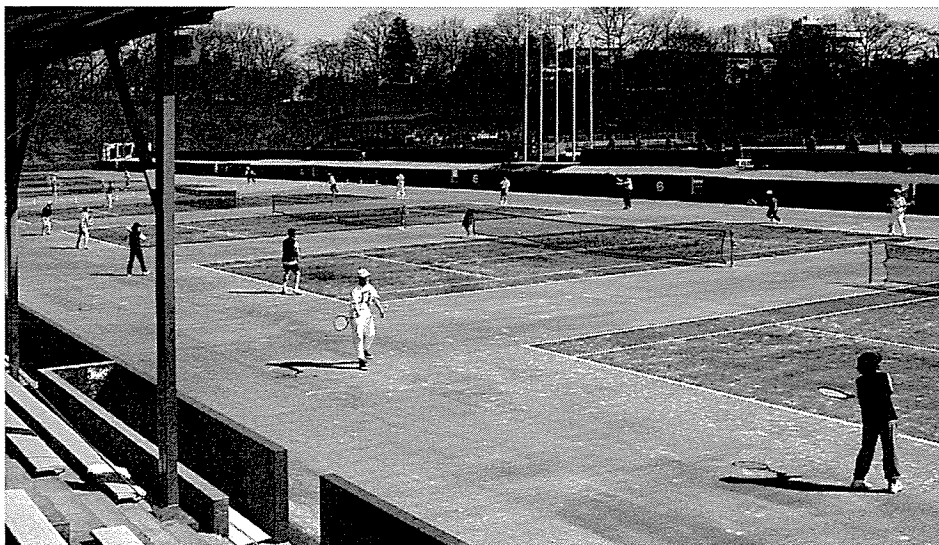
事務局は、協会に関わる事務一般、大会の受付や選手のポイントの計算までを、平成2年度から20年度までの長きにわたり岸野剛仁氏が一手に引き受けて下さり、御苦労いただきました。現在では昭和57年度から引き続き幹事として、会計をはじめ協会運営に活躍中の三浦幸雄氏を中心として、出来る限り分業化を進めようと試行錯誤中です。

## 活動状況

東松山テニス協会では主な活動として年間6回の大会とテニス教室を運営し、その他に親善試合などの事業を実施する一方で、東松山市体育協会、教育委員会、埼玉県テニス協会、埼玉県北部郡市テニス協議会との連携を図り、市外の試合等への会員の参加や、諸行事への参加、協力をしています。

まず大会ですが、春と夏の市民大会（夏は市民総合体育大会）でシングルスとダブルス両種目を男女A、B 2つのランクに分けて開催しています。特に夏の市民総体では一般の部の他にベテランの部とジュニアの部も行い、生涯スポーツとして位置付けをさらに明確化しています。秋に行われている選手権大会はシングルのみ、1月開催の新春ダブルス大会はダブルスのみで、両大会ともA、Bのランクを分けずに実施しています。近年ではBランクの技術レベルの向上も見られるため、試合経験の少ない選手にもより多くの参加の機会を提供できるよう、選手権大会に初心者の種目を追加して好評を得ています。

また、5月から6月には協会加盟団体によるクラブ対抗戦が、男女日程を別にしてダブルス3試合により行われます。原則として12月に開催されるミックスダブルス大会とともに、予戦リーグと決勝トーナメントという形式で、多数の試合ができることもあり、設立当初にはなかった若干親睦的要素も含んだ大会として親しまれています。



▲平成14年3月10日、砂入り人工芝化された東松山庭球場で、その感触を確かめるようにプレー

これらの大会は参加者も相変わらず多く、東松山庭球場と中原コートを使用して大会を運営しています。平成13年度の冬期間には東松山庭球場をクレーコートから砂入り人工芝に変える改修工事が行われました。その年度の新春ダブルス大会は、改装なった東松山庭球場のこけら落としとして、3月に実施されました。平成14年度からのテニス大会は、砂入り人工芝に代わった東松山庭球場を中心に行われるようになり、小雨程度の天候なら大会が開催できるので、大変運営もしやすくなったと言えます。また、昨年度（平成20年度）の大会からは東松山庭球場にナイター設備が備わり、日没を気にせず運営できるようになって大変助かっています。

テニス教室は、主に加盟団体の初級者を対象として上級者が指導する場を設けたり、最近ではメーカーのスタッフを招いて更なる技術指導とレッスン、ラケットの試打会等を行ってジュニアを含め多くの参加が見られます。

その他、坂戸市テニス協会とは毎年3月に親善試合を行って、主にダブルスで対抗戦を実施しています。その後必ず開催される懇親会では、その成績発表等々で大いに盛り上がり、まさに「親善」を実践しています。



▲平成21年7月26日、第38回市民総合体育大会 テニスの部 開会式  
ナイター設備の整った東松山庭球場でスムーズな大会運営が可能になった

## 今後の課題

現在、東松山ジュニアテニスクラブのジュニアメンバーは51名で、10年前の頃に比べると人数は減少しています。ただ、入部希望者が減少している訳ではなくて、テニスコートの確保やコーチの人数の問題からある程度の制限をしなければならないので、毎年15名程度の新入部員を入れても全体としては若干減少傾向にあります。

東松山ジュニアテニスクラブは、基本的に小学校2年生から中学校3年生を対象に運営されています（小学校の高学年からの入部希望者も受け入れることがあります）ので、中3になると学校の卒業と同時に東松山ジュニアテニスクラブも卒業となるわけです。ところが実際には、ジュニアメンバーの多くは中学生になるとテニス以外の部活に入り、勉強とその部活が忙しくなり、さらに東松山ジュニアテニスクラブの練習に参加するのは難しくなるので、結局はその時点で退部しなければならない人が多いのが現状です。

というのも、現在、東松山市立の中学校にはテニス部は1校もないため、中学生になるとテニスを断念するか、部活に入らずにテニス続けるか、厳しい選択を迫られてしまうという現状があるからです。この状況を打破することがジュニアの育成には是非とも必要なことなの言うまでもありません。テニスコートや指導者の確保など、様々な課題はありますが「東松山市立の中学校にテニス部を創って欲しい」これはジュニアテニス関係者の切実な希望なのです。当然のことながら東松山市テニス協会としても全面的に働きかけていくとともに、課題の解決にも協力を惜しまない方針です。

前述のように平成20年4月から東松山庭球場にナイター設備が備わり、夜9時30分までコートが利用できるようになりました。特に春先から夏場にかけては利用者も多く、金曜日は毎週予約でいっぱい状況です。しかし、昨年の秋から冬にかけては、気候のせいもあるのか、平日のナイターは空いていることも多かった状況です。ナイター設置から1年が経過したばかりで、利用状況が十分に把握されているとは言えませんが、協会としては利用者が少なくなる時期にあわせて、ナイター設備使用によるイベントを行うなど企画し、日没以降、夜間もテニスを楽しめることをもっとテニス関係者に浸透させるつもりです。

東松山庭球場の砂入り人工芝化とナイター設備は、大会運営の利便性を大幅に高めてくれました。民間のコートまであちこちを借りて試合をこなし、勝ち上がった選手が新郷硬式庭球場に集まって決勝を行うといった運営を余儀なくされた時代とは雲泥の差があります。しかしながら一面では、土日など、市内外の大会でおさえられてしまう日が多くなり、各団体の練習コートの手配は難しくなっています。

新郷硬式庭球場がなくなってからはその傾向に拍車がかかり、民間のテニスコートも廃止の動きが見られるところも出てきています。生涯スポーツとしてジュニアからシニアまで浸透、定着してきた東松山市のテニスを維持、発展させていくためには、コート確保の問題は避けて通れません。しかしながら昨今の経済状況下で、コートを建設する要望を出せば市が対応してくれる、という簡単な甘い考えが通用しないのは誰でもわかることです。

東松山市テニス協会の抱えるこの大きな問題は、協会だけで頑張れば何とかなるものではありません。加盟各団体はもちろん、会員一人ひとりが解決に向けて一致協力するとともに、支えて下さる埼玉県テニス協会をはじめテニス界だけでなく、自治体や民間企業、また個人にまで働きかけ、乗り越えていかねばならない壁です。どうか関係各位の御支援、ご協力をこの場を借りてお願い申し上げます。

今後も東松山市テニス協会は、40周年、50周年に向けて、ジュニアからシニアまでより多くの方が幅広くテニスを楽しめるよう、テニスの普及と技術向上との両輪を力強く駆動すべく、積極的に取り組んでまいります。

## 東松山市テニス協会30周年によせて

(特別寄稿)

「本当に瞬く間の30年だったか？」

林 孝明

年寄りの昔話と言わずに少しの間お付き合い下さい。「過去に目をつむるものは現在にも盲目である」とも言うのではないですか。30+ $\alpha$ 年前は体育協会に加盟するために20代の若者達は、実績作りに励んだものでした。「加盟条件の実績ってなに？」各団体から選ばれた役員は毎月会合を重ねました。いつも、お茶を飲むためのヤカンでのお湯沸かしから会議は始まりました。夜までの会議だけでは何かブレイクスルーするものがなく、バスを仕立てて群馬県の丸沼スキー場へレクリエーション。テニスコートでの一日や会議室での話し合いとは違った、「一宿一飯の仲」が得られました。テニスがうまくてもスキーは苦手、お酒は飲めないがカラオケがうまい等々、その時のお仲間は、建築士や弁護士を目指すちょっと生意気な青年（あおねん）そのものでした。そんな設立時の若手も今やaround50~アラ還となりましたが、立派に初志も貫徹しています。

一方では年を重ねると、会長さんや、理事、功労者とお世話になった方々の悲しい別れもありました。遺志をつなぐことが、私たちの役目です。

現在私は協会のジュニア・ママ委員会の延長線にある東松山ジュニアテニスで何人かの皆様とコーチをしています。コーチの皆様や、父母会の熱意、創意、誠意でトッププレーヤーも育ち、5年前のホーム国体の場で凱旋してくれました。会場へは連日大勢のジュニアも応援に駆け付け「なみちゃ〜ん」「のんちゃ〜ん」の声、今でも耳に残っています。小2~中3までの8年間、多感な時期で身長も80cmも伸びる子もいます。このような時期と一緒にテニスをしながら成長を見守れるなんて、最高です。

(硬式)テニスの出来る場の確保では、「市長への手紙」も効いたかも。東松山市テニス協会ですった人の輪が実績をかさね、有言無言のパワーとなって動かしただけでしょう。テニス施設(ハード面)も整ってきました。しかし単なる箱ものにしないためにも、皆さんが参加できる企画や仕組み(ソフト面)の充実が継続的な発展を保障するものです。

現在のアラサー(around 30)はいずれ迎えるアラ還まで熱意、創意をもってバトンを繋いでください、足跡を残してください。そのことで「瞬く間の30年だった!」と言える権利が持てるのです。10代もいる、70代、80代もいるなんて、それはすばらしいことです。世代をつなぐテニス協会として更なる発展を祈念いたします。

長文になってしまいました、協会第一世代のアラ還より。